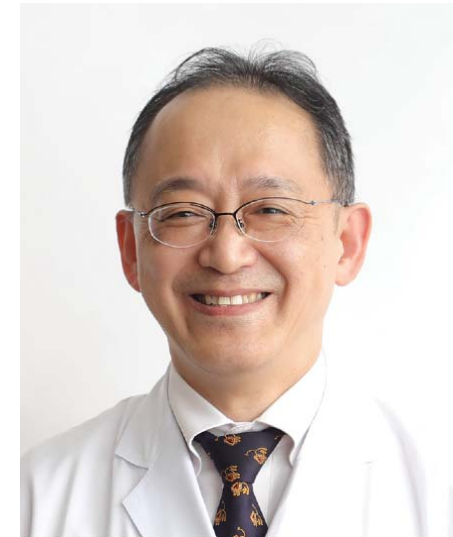


小児がん連携病院と小児がん医療



小児がんセンター長 **松本公一**

(まつもときみかず)



今日のお話

日本の小児がん医療の現状

小児がん連携病院はどのようにして決まったか

小児がんと成人がんの連携

お願い

まずは、小児がん医療の現在について

日本の小児がん (日本小児血液・がん学会 疾患登録 2016年集計)

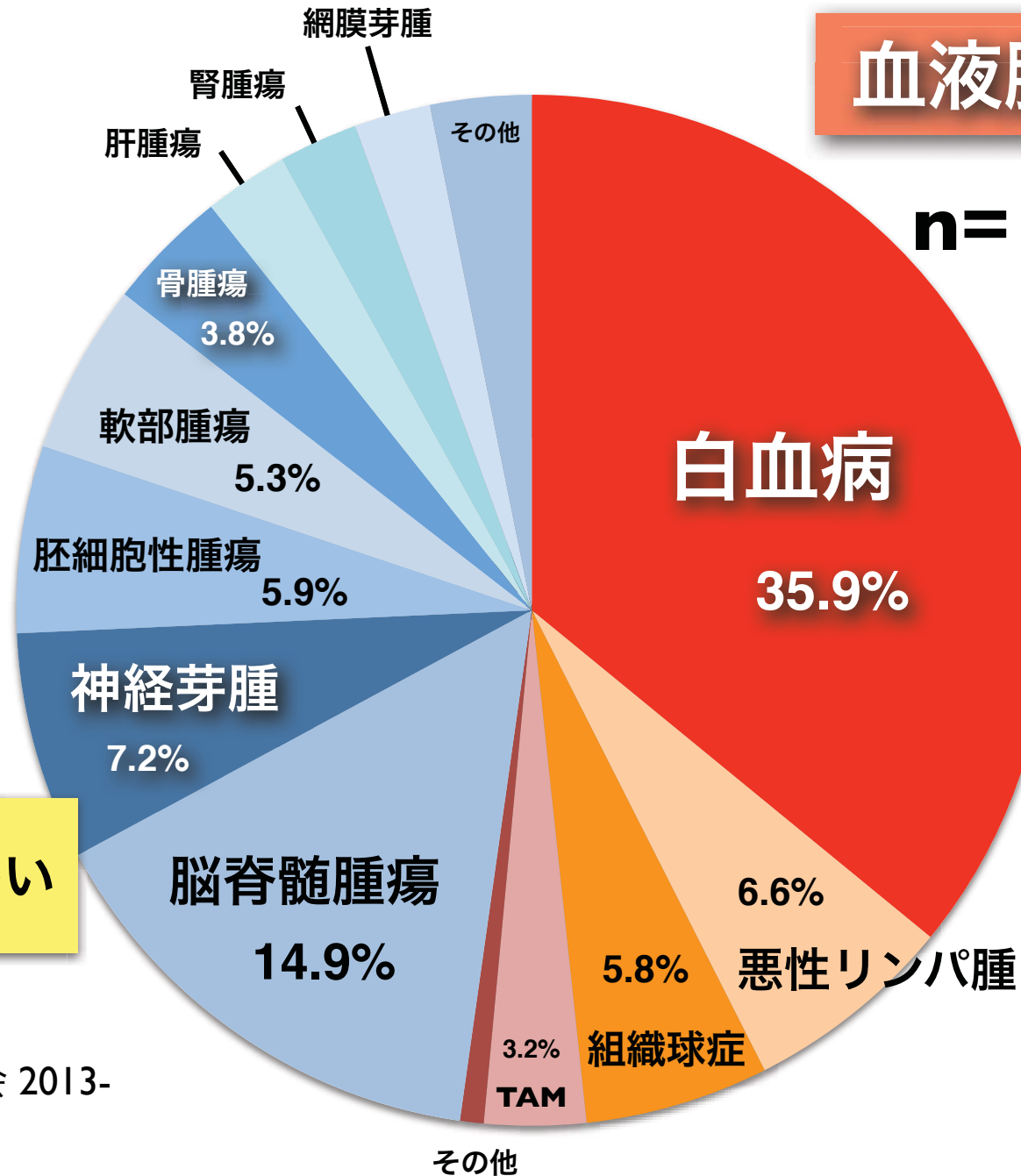
血液腫瘍

n=1082/年

固形腫瘍

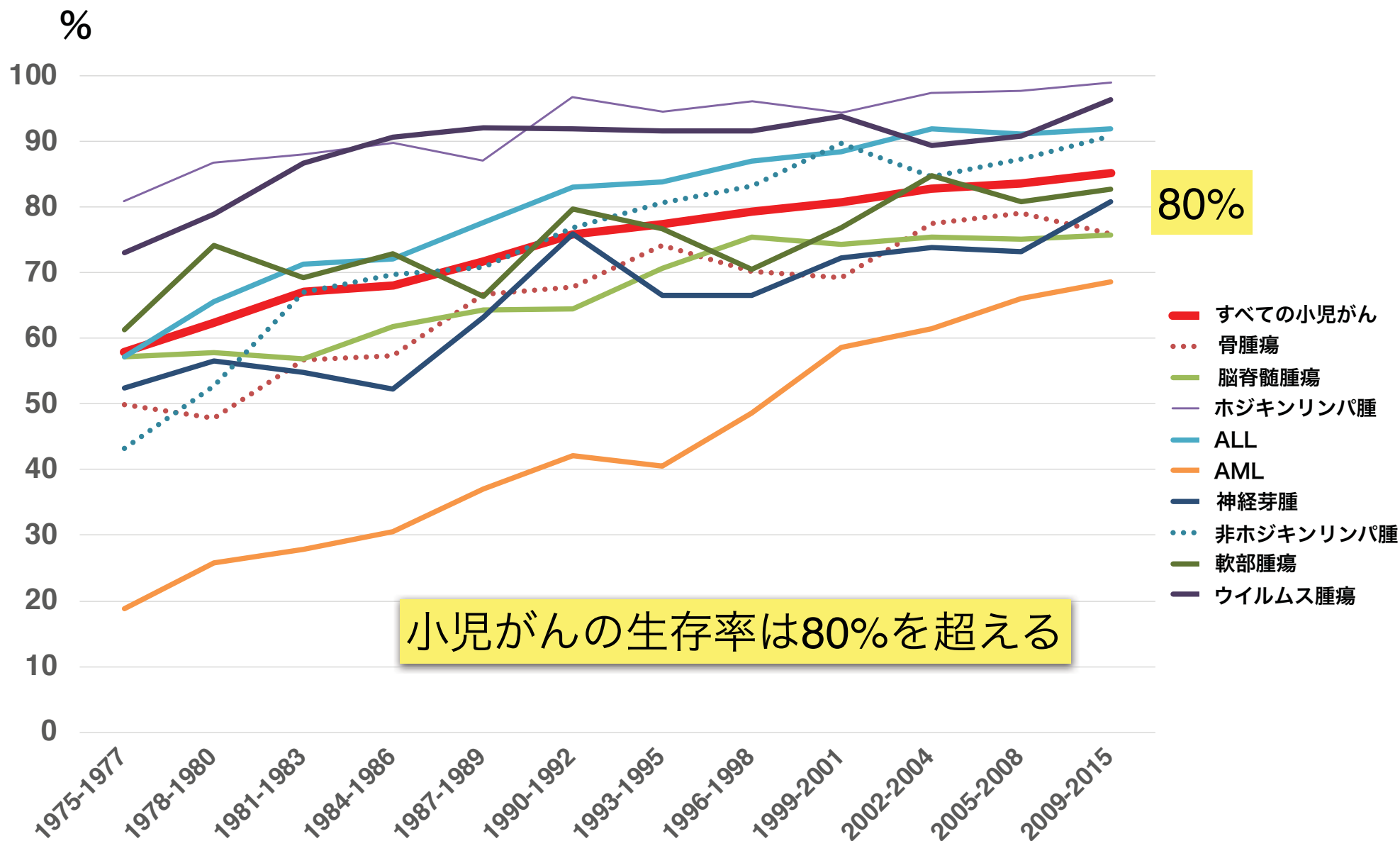
n=990/年

小児がんは種類が多い



日本小児血液・がん学会 2013-2015登録症例より

年代別小児がん発生部位別の5年生存率

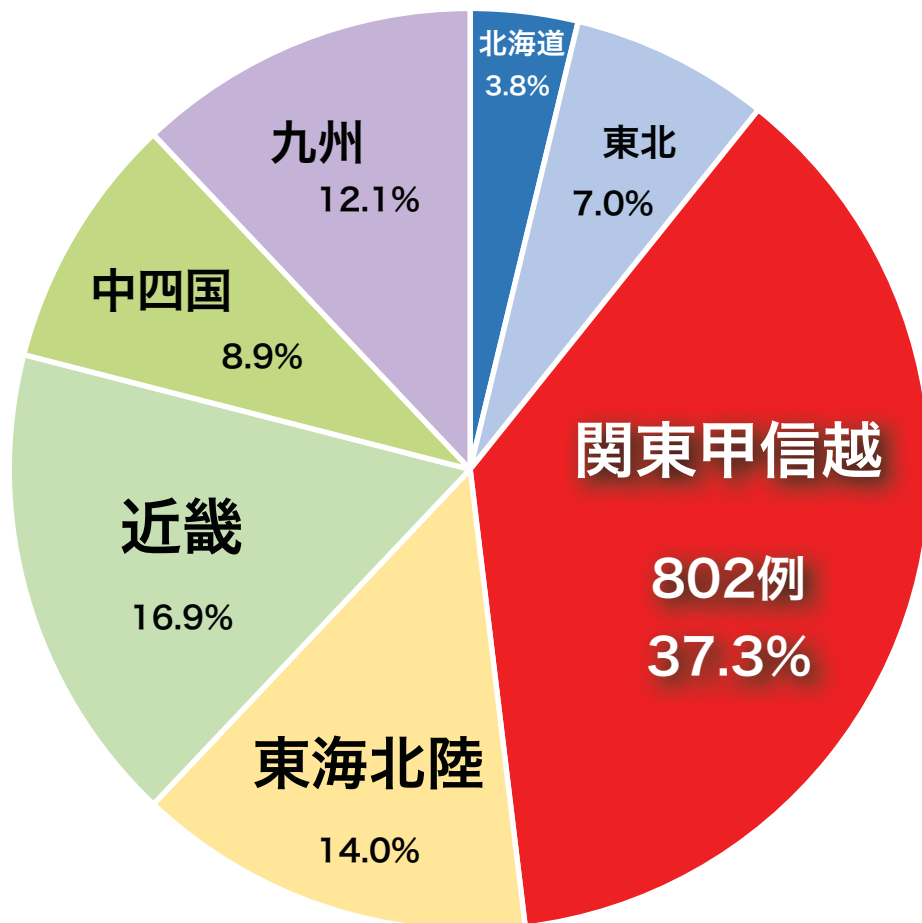


小児がんの生存率は80%を超える

小児がんの地域分布

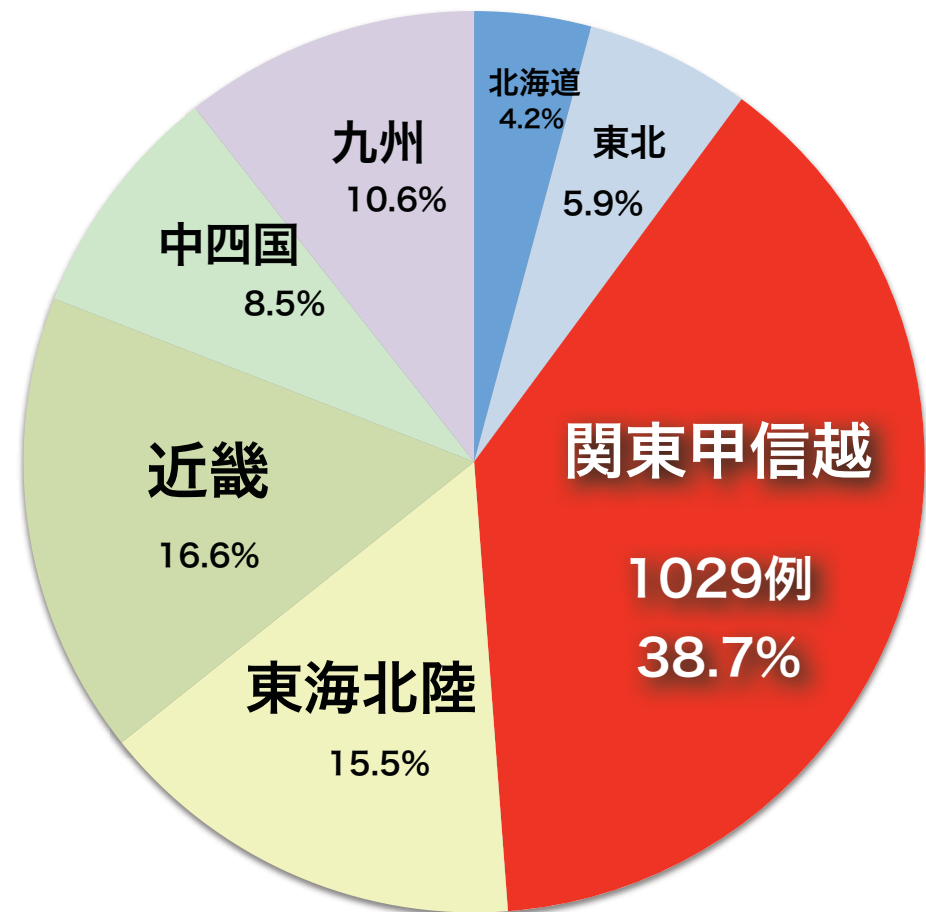
全国がん登録 (15歳未満)

2016 (n=2148)



情報公開

2014-2016 (n=2659)



日本におけるがん対策

がん対策基本法

がん対策を総合的かつ計画的に推進

平成18年6月成立、平成19年4月施行
平成28年12月改正

がん対策推進基本計画

少なくとも6年毎に検討を加える

平成24年6月 第2期がん対策推進基本計画

平成29年10月 第3期がん対策推進基本計画

都道府県がん対策推進計画

がん対策基本法

平成18年6月成立、平成19年4月施行

全国どこでも同じレベルの医療が受けられる環境整備や、
政府が総合的ながん対策として「がん対策推進基本計画」を策定
することなどを目的に制定

日本人の二人に一人はがんにかかる、三人に一人はがんで亡くなるという時代に入っています。乳がんや肝臓がんなどは若い患者も急速に増えています。今や、がんは最も身近な病気です。しかし、**がん治療には地域間格差、施設間格差があって**、治療法があるのにもう治らないと言われて見放されたがん難民が日本列島をさまよっています。

(略) がん患者は、がんの進行や再発の不安、先のことが考えられな
いつらさなどと向き合いながら、身体的苦痛や経済的負担に苦しみな
がらも、新たな治療法の開発に期待を寄せつつ、一日一日を大切に生
きています。私があえて自らががん患者だと申し上げましたのも、がん
対策基本法の与党案と民主党案を一本化し、今国会で成立させること
が日本の本格的ながん対策の第一歩となると確信するからです。

https://www.nikkei.com/article/DGXNASFS2303P_T20C13A5000000/

2006年5月22日参議院本会議



民主党参議院

山本たかし 議員

1949年7月7日 - 2007年12月22日

<https://www.youtube.com/watch?v=skLUObSLNHA>

第2期 がん対策推進基本計画

2012年6月

重点的に取り組むべき課題

1. 放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とこれらを専門的に行う医療従事者の育成
2. がんと診断された時からの緩和ケアの推進
3. がん登録の推進
4. 働く世代や小児へのがん対策の充実

写

【改正後全文】
健発0907第2号
平成24年9月7日
最終改正 健発0205第4号
平成26年2月5日

成人のがん診療連携拠点病院は2006年からです

厚生労働省健康局長

小児がん拠点病院等の整備について

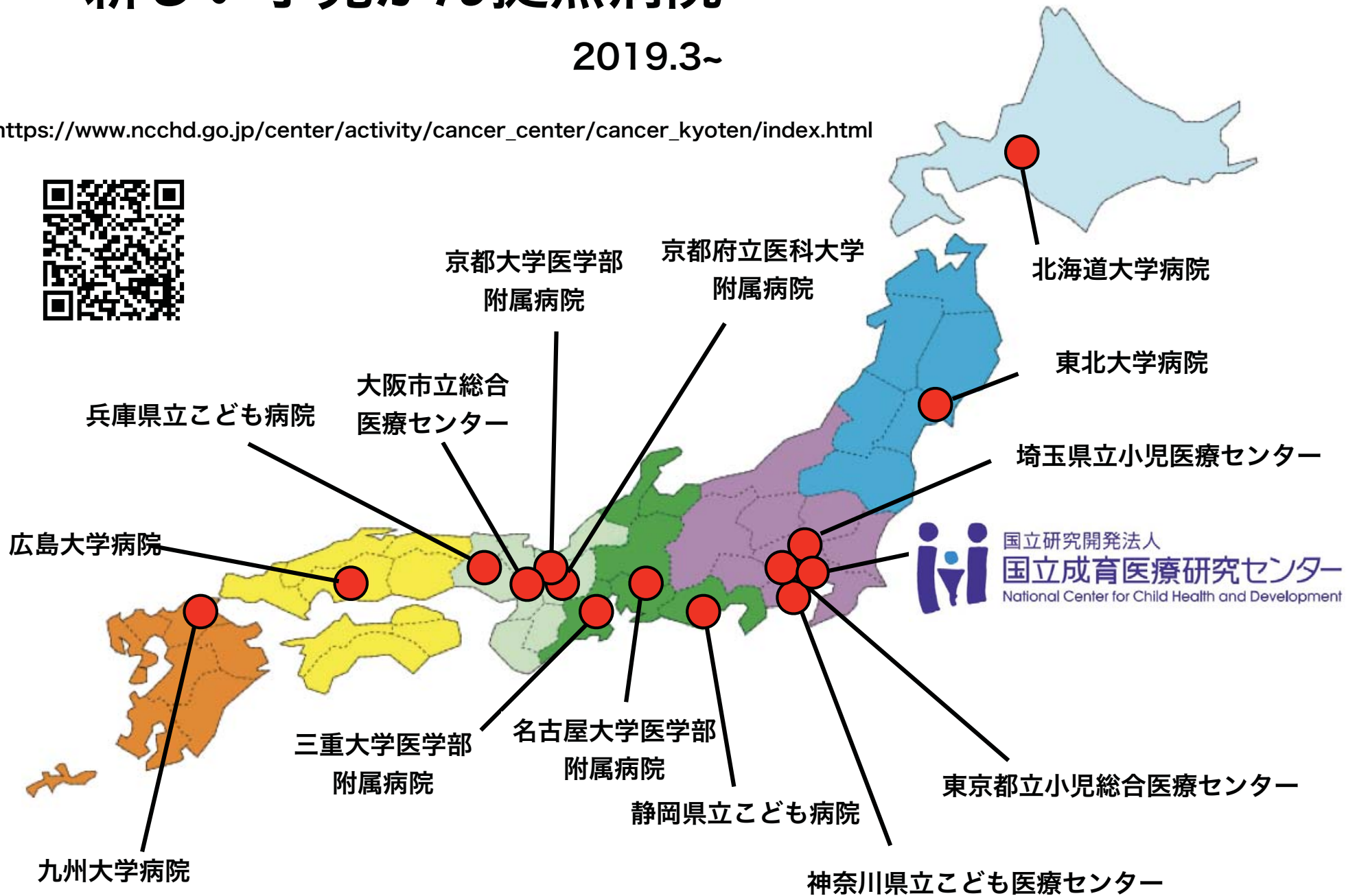
我が国において、「がん」は小児の病死原因の第1位である。小児がん患者は、治療後の経過が成人に比べて長いことに加えて、晩期合併症や、患者の発育・教育に関する問題等、成人のがん患者とは異なる問題を抱えている。特に、小児がんの年間発症患者数は2000人から2500人と少ないが、小児がんを扱う施設は約200程度と推定され、医療機関によっては少ない経験の中で医療が行われている可能性があり、小児がん患者が必ずしも適切な医療を受けられていないことが懸念されている。こうした現状を改善するため、小児がん診療及び支援体制の充実を図り、小児がんに関する積極的かつ効果的な施策を展開していくことが重要かつ急務となっている。

2013年2月に15拠点病院が
選定された。

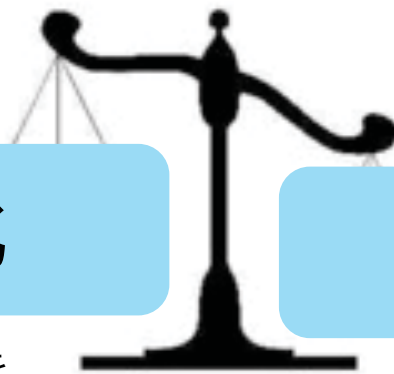
新しい小児がん拠点病院

2019.3~

https://www.ncchd.go.jp/center/activity/cancer_center/cancer_kyoten/index.html



小児がん拠点病院事業のキーワード



均てん化

どこの病院でもレベルの高い医療を受ける事ができる

集約化

少ない疾患、難しい疾患は集中させる

自宅近くの病院と15カ所の拠点病院
小児がん 治療にタッグ

テレビ会議で情報共有

画像所見(前MRI)

朝日新聞記事より

地域連携

国立がん研究センター
小児がん情報サービス ganjoho.jp

小児がんは、小児のさまざまながんの総称です。
小児がんの子どもたちの約8割が
治癒して成人するようになりました。

がん情報サービス ganjoho.jp

がん登録・統計
日本のがんの状況や、がん登録に

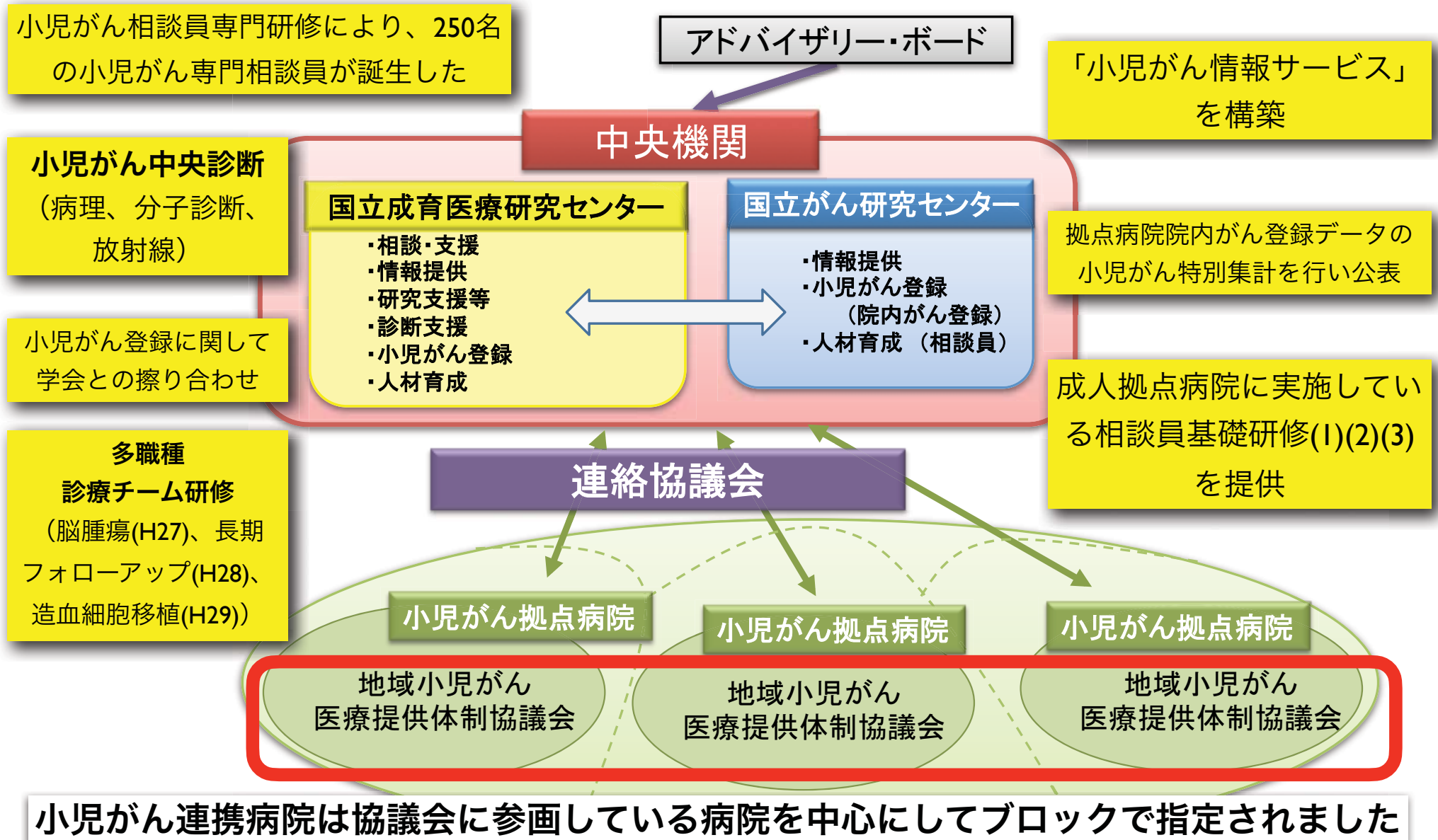
情報提供



人材育成

小児がん中央機関

厚生労働大臣が指定する小児がん中央機関は拠点病院を牽引し、全国の小児がん医療の質を向上させるため、以下の役割を担うものとする。



アドバイザー・ボード

中央機関

「小児がん情報サービス」
を構築

拠点病院院内がん登録データの
小児がん特別集計を行い公表

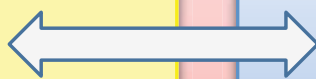
成人拠点病院に実施してい
る相談員基礎研修(1)(2)(3)
を提供

国立成育医療研究センター

- ・相談・支援
- ・情報提供
- ・研究支援等
- ・診断支援
- ・小児がん登録
- ・人材育成

国立がん研究センター

- ・情報提供
- ・小児がん登録
(院内がん登録)
- ・人材育成 (相談員)



連絡協議会

小児がん拠点病院

小児がん拠点病院

小児がん拠点病院

地域小児がん
医療提供体制協議会

地域小児がん
医療提供体制協議会

地域小児がん
医療提供体制協議会

小児がん連携病院は協議会に参画している病院を中心にしてブロックで指定されました

小児がん相談員専門研修により、250名
の小児がん専門相談員が誕生した

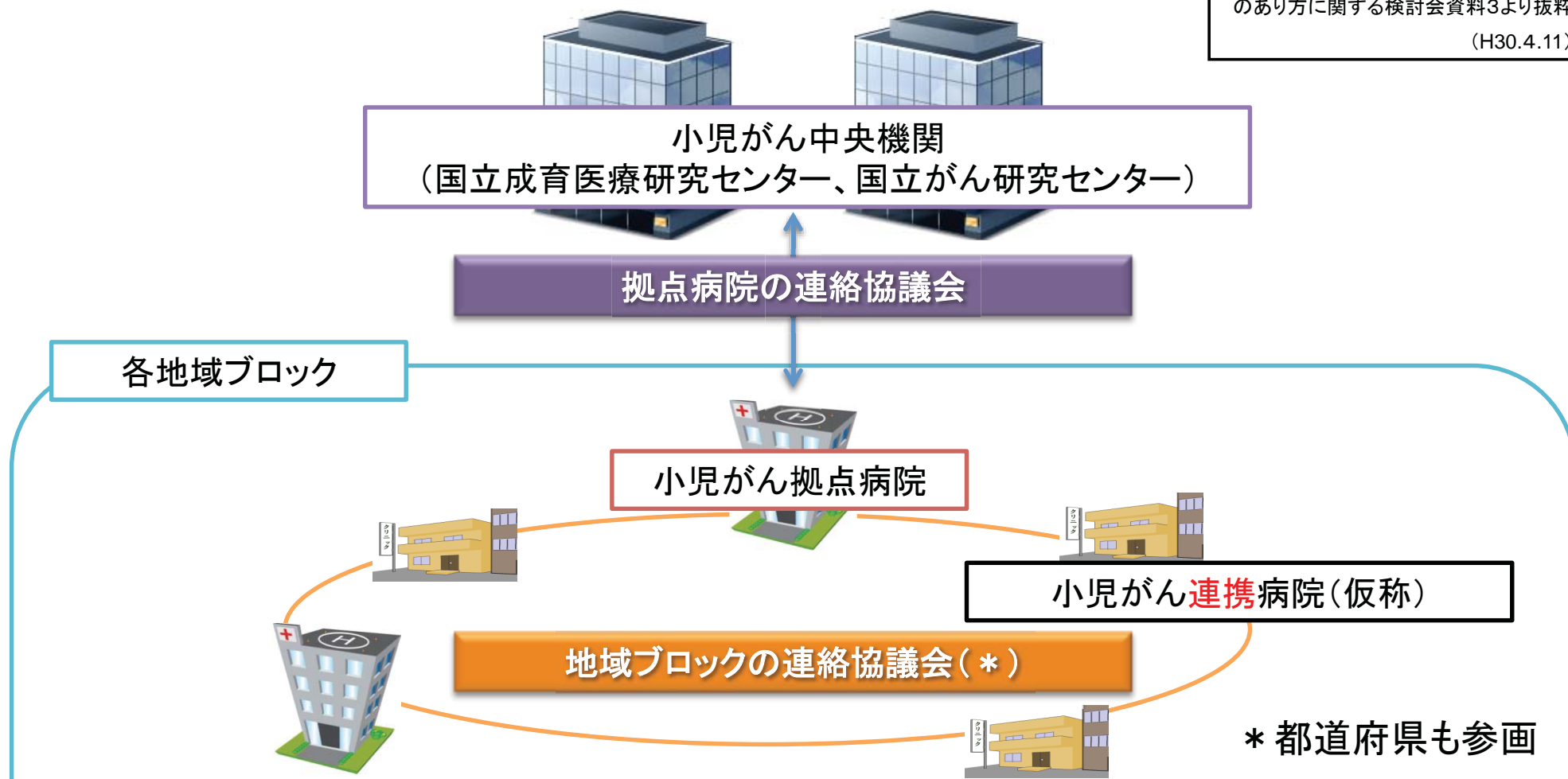
小児がん中央診断
(病理、分子診断、
放射線)

小児がん登録に関して
学会との擦り合わせ

多職種
診療チーム研修
(脳腫瘍(H27)、長期
フォローアップ(H28)、
造血細胞移植(H29))

小児がん診療・支援のさらなるネットワーク化

第3回小児・AYA世代のがん医療・支援
のあり方に関する検討会資料3より抜粋
(H30.4.11)



※小児がん連携病院(仮称)は、その役割を明確化し各地域の小児がん拠点病院と連携する。

- ① 地域の小児がん診療を行う病院との連携
- ② 専門性の高いがん種等についての連携・情報集約
- ③ 小児がん患者等の長期フォローアップ

でも、勝手に連携病院を決めたわけではありません

小児がん連携病院の指定

拠点病院は、地域の「質の高い医療及び支援を提供するための一定程度の医療資源の集約化」を図るために、次に掲げる（１）から（３）のそれぞれの類型ごとに、小児がん連携病院を指定することができる。指定に際しては、事前に地域ブロック協議会において議論を行い、意見を聴取することとする。なお、小児がん連携病院が**最低限満たすべき要件については、下記に示す事項を参考に、地域の実状を踏まえ、各地域ブロック協議会で協議の上、定めるものとする。**

小児がん連携病院の類型①

	診療体制	人的配置	情報の収集提供体制	医療安全
①地域の小児がん診療を行う連携病院	<p>ア 標準的治療が確立しており均てん化が可能ながん種について、拠点病院と同等程度の適切な医療を提供することが可能であること。</p> <p>イ 小児がん医療について、第三者認定を受けた医療施設であること。</p> <p>ウ IIの1の(1)の④に準じた連携の協力体制を構築していること。</p> <p>ク 緊急対応が必要な患者や合併症を持ち高度な管理が必要な患者に対して、拠点病院やがん診療連携拠点病院等と連携し適切ながん医療の提供を行うこと。</p>	<p>エ IIの1の(2)に準じた人員配置を行うことが望ましい。</p>	<p>カ 相談支援の窓口を設置し、必要に応じて、拠点病院の相談支援センターに紹介すること。なお、IIの3の①に規定する研修を受けた者を配置することが望ましい。</p> <p>キ 院内がん登録の実務を担う者として、国立がん研究センターが提供する研修で認定を受けている者を1人以上配置することが望ましい。</p>	<p>オ IIの7の(1)、(3)、(4)、(5)に規定する項目を満たすこと。IIの7の(2)に規定する医療安全管理者の配置に関しては、IIの7の(1)に規定する医師に加え、常勤の薬剤師及び常勤の看護師を配置すること。</p>

小児がん連携病院の類型②

<p>②特定のがん種等についての診療を行う連携病院</p>	<p>ア 以下のいずれかを満たすこと。 i 特定のがん種について、集学的治療等を提供する体制を有するとともに、標準的治療等がん患者の状態に応じた適切な治療を提供することが可能であること。また、当該がん種について、当該都道府県内における診療実績が、特に優れていること。 ii 限られた施設でのみ実施可能な粒子線治療等の標準的治療を提供していること。</p> <p>イ IIの1の(1)の④に準じた連携の協力体制を構築していること。</p> <p>キ 緊急対応が必要な患者や合併症を持ち高度な管理が必要な患者に対して、拠点病院やがん診療連携拠点病院等と連携し適切ながん医療の提供を行うこと。</p>	<p>ウ IIの1の(2)に準じた人員配置を行うことが望ましい。</p>	<p>オ 院内がん登録の実務を担う者として、国立がん研究センターが提供する研修で認定を受けている者を1人以上配置することが望ましい。</p> <p>カ 相談支援の窓口を設置し、必要に応じて、拠点病院の相談支援センターに紹介すること。なお、IIの3の①に規定する研修を受けた者を配置することが望ましい。</p>	<p>エ IIの7の(1)、(3)、(4)、(5)に規定する項目を満たすこと。IIの(2)に規定する医療安全管理者の配置に関しては、IIの(1)に規定する医師に加え、常勤の薬剤師及び常勤の看護師を配置すること。</p>
<p>③小児がん患者等の長期の診療体制の強化のための連携病院</p>	<p>ア 小児がん患者等の長期フォローアップが可能な体制を有するとともに、患者の状態に応じた適切な治療が必要な場合、自施設において適切な治療を提供することが可能であること、また、自施設での対応が難しい場合には、拠点病院等適切な病院に紹介する体制を整えていること。</p> <p>ウ IIの1の(1)の④に準じた連携の協力体制を構築していること。</p> <p>オ 緊急対応が必要な患者や合併症を持ち高度な管理が必要な患者に対して、拠点病院やがん診療連携拠点病院等と連携し適切ながん医療の提供を行うこと。</p>	<p>イ 一般社団法人小児血液・がん学会が主催する「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会」を受講した医師を配置していること。なお、上記については、平成32年3月までに、配置していれば良いものとする。</p>	<p>エ 相談支援の窓口を設置し、必要に応じて、拠点病院の相談支援センターに紹介すること。なお、IIの3の①に規定する研修を受けた者を配置することが望ましい。</p>	<p>—</p>

ブロック別小児がん連携病院の概要

(2020.4.1現在)

	カテゴリー1	カテゴリー2	カテゴリー3	診療病院あたりの 小児がん患者数*
北海道(16)	4	1	11	16.2
東北(9)	7	1	9	18.8
関東甲信越(36)	31	3	2	22.9
東海北陸(17)	16	3	8	15.8
近畿(30)	17	3	10	17.3
中四国(16)	15	1	0	12.0
九州(16)	16	0	6	15.2
総計(140)	106	12	46	17.8

*全国がん登録(2016) 登録数 / カテゴリー1 病院数 + 拠点病院

小児がん連携病院のまとめ

カテゴリー 1

地域の小児がん診療
を行う連携病院

106 施設

カテゴリー 2

特定のがん種、放射線治療
を行う連携病院

12 施設

カテゴリー 3

長期フォローアップ
を行う連携病院

46 施設

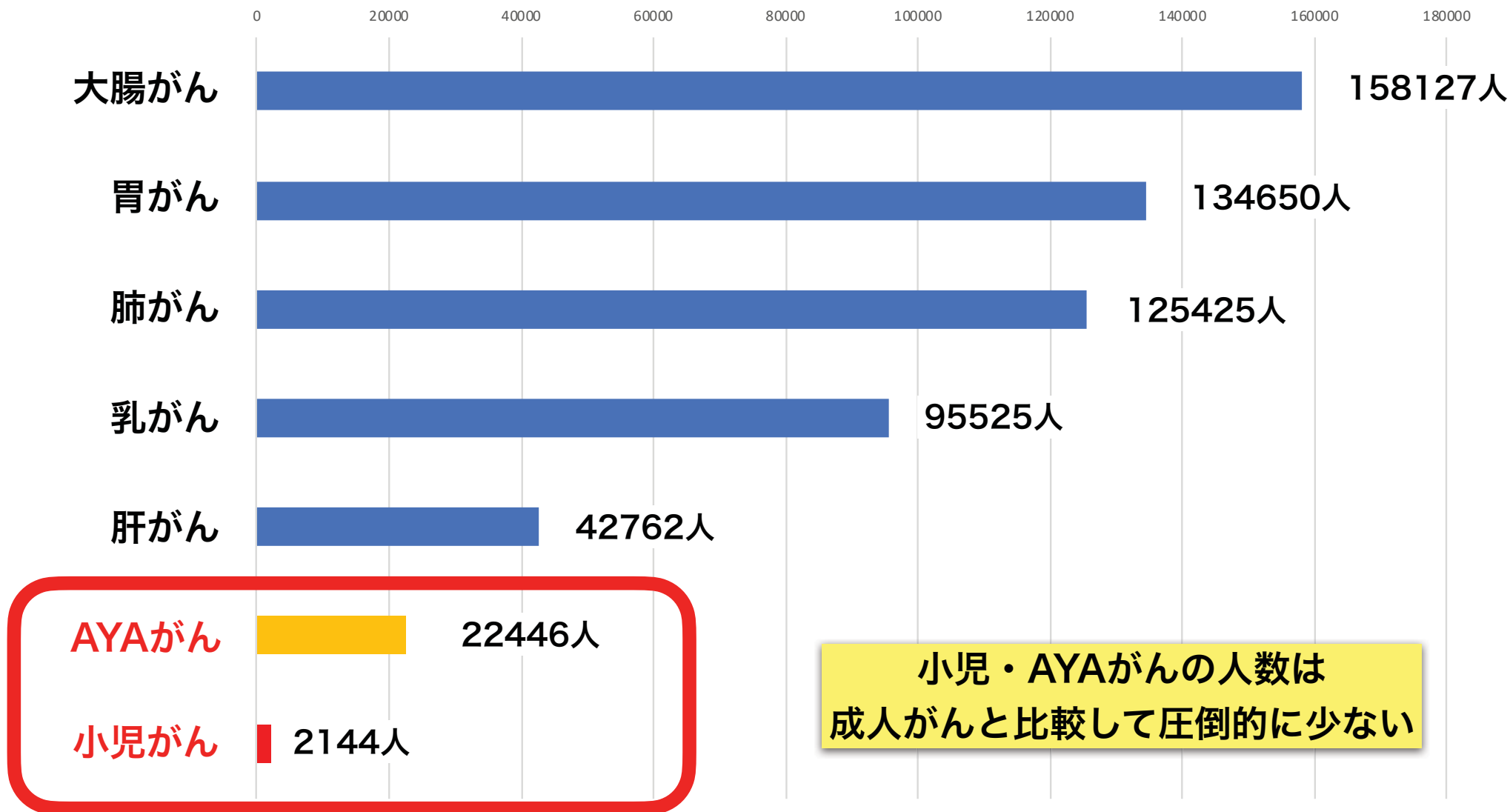
小児がん相談員の配置が望ましい

関東甲信越ブロックでは、小児がん相談員の配置をマストとしている

小児がんと成人がんの連携はどうしたら良いのか

上皮内がんを除く全部位のがん罹患数は、99万5132人

2016年全国がん登録 速報値より



小児がんと成人がんの対比

小児がん

成人がん

小児がん拠点病院 15

小児がん中央機関 2

小児がん連携病院 140

小児病院が多い
地域ブロック単位

がん診療連携拠点病院 402

都道府県がん診療連携拠点病院 51

地域がん診療連携拠点病院 275

地域がん診療連携拠点病院（高度型） 47

地域がん診療連携拠点病院（特例型） 26

特定領域がん診療連携拠点病院 1

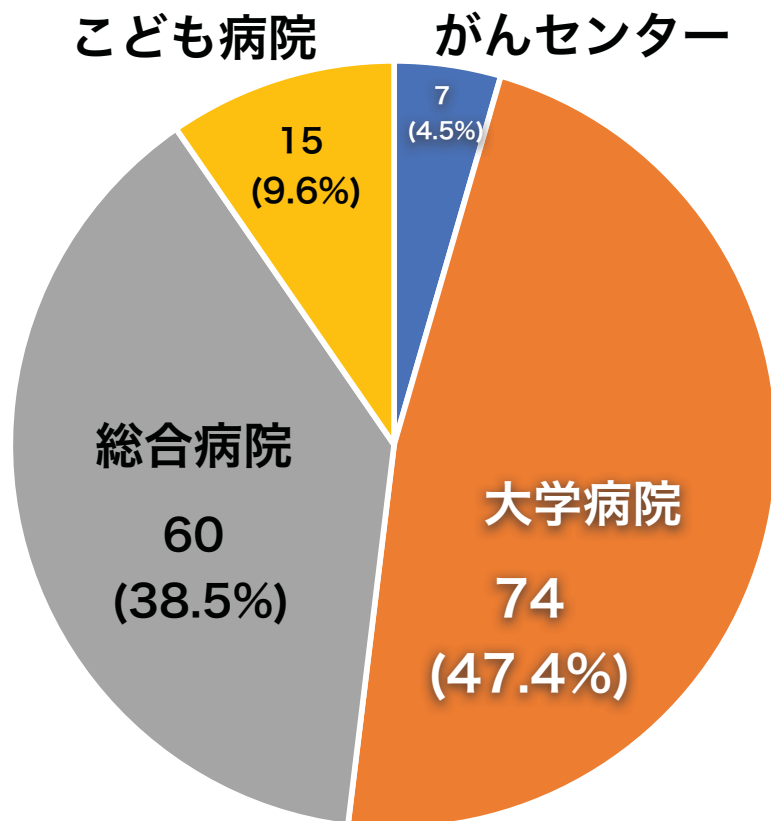
国立がん研究センター 2

地域がん診療病院 45

がんセンターが多い
都道府県単位

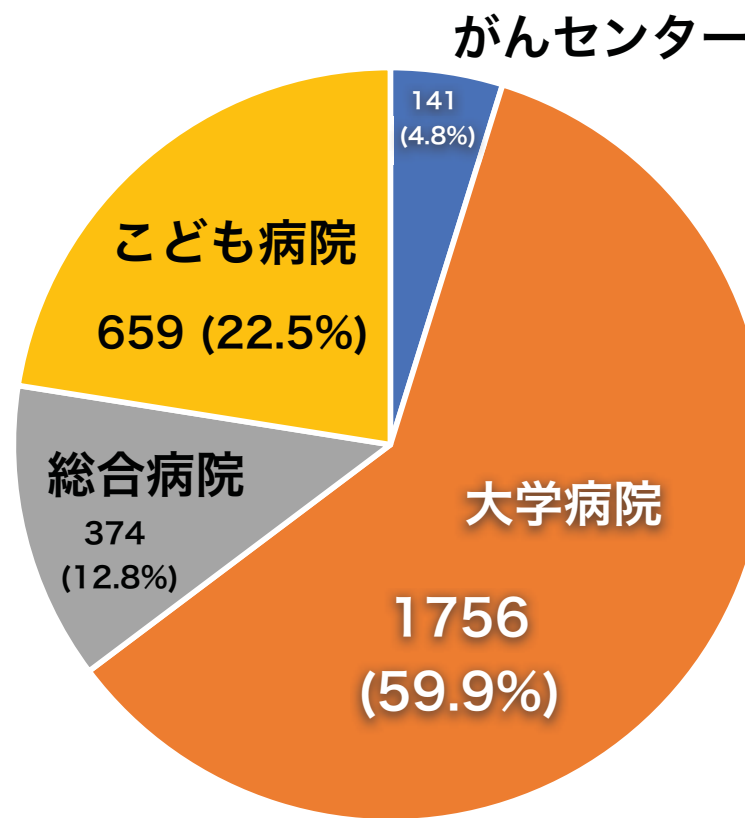
小児がん診療の実態

病院数



n=156

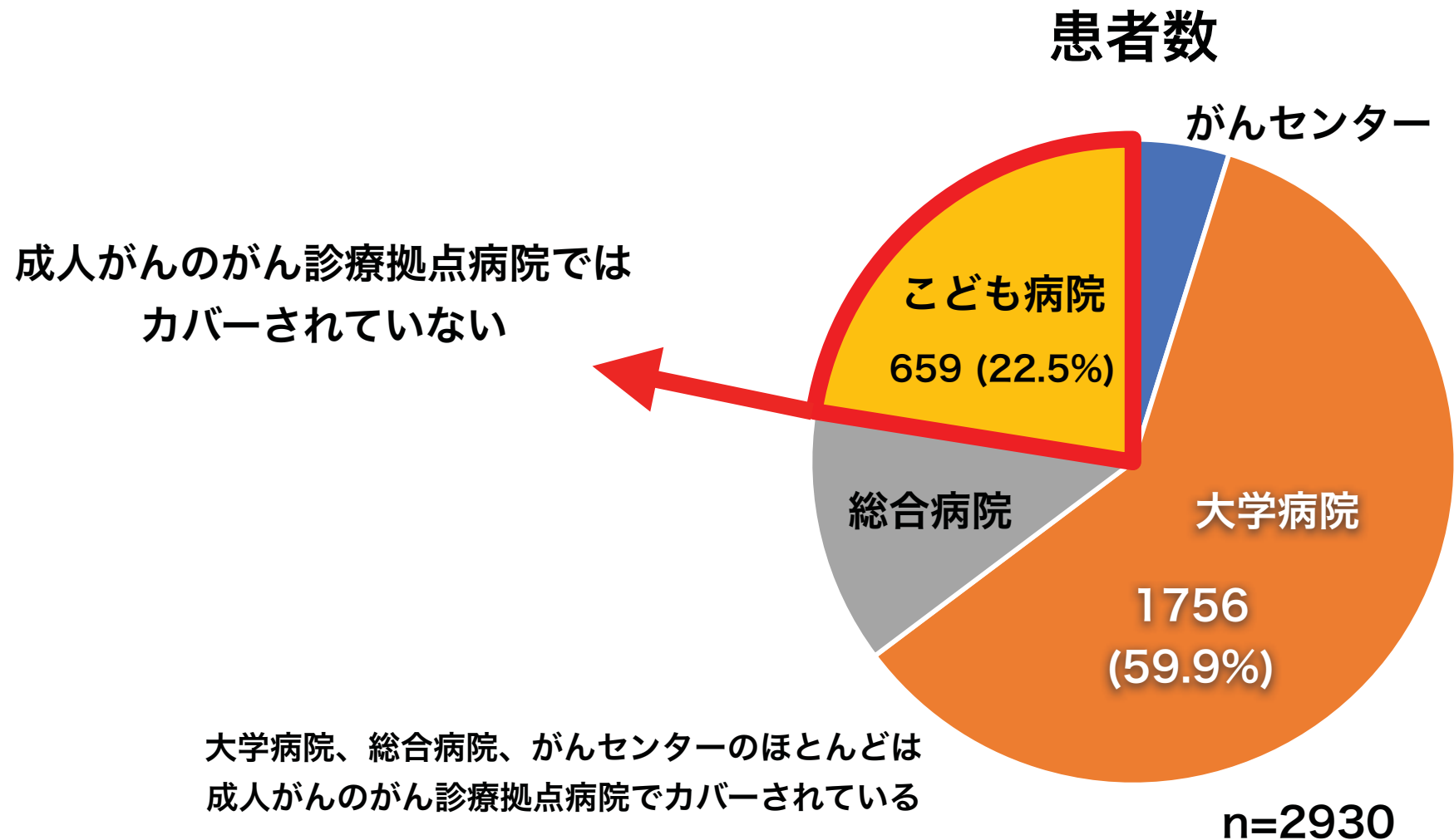
患者数



n=2930

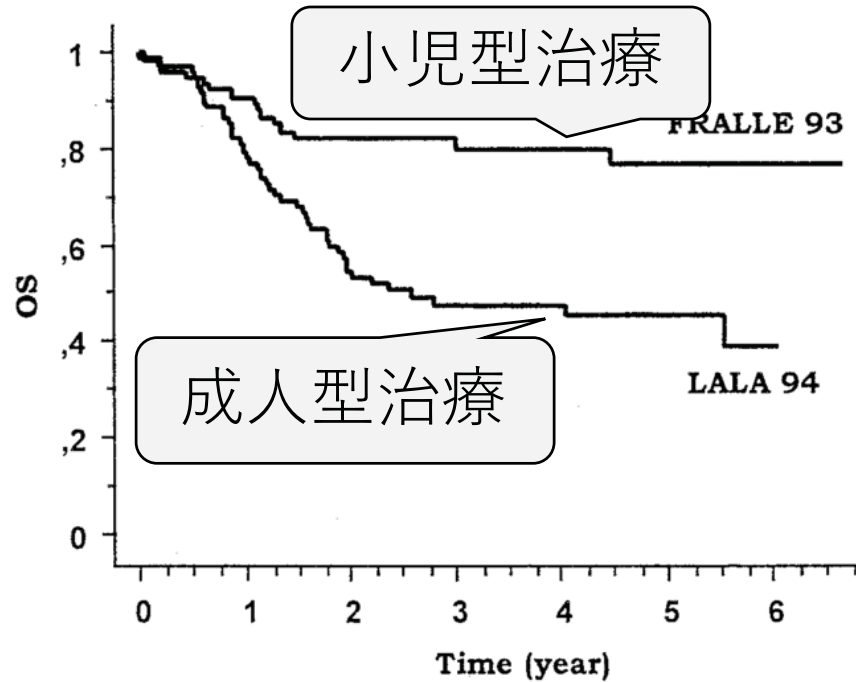
2018 小児がん拠点病院・連携病院の情報公開より

小児がん診療の実態

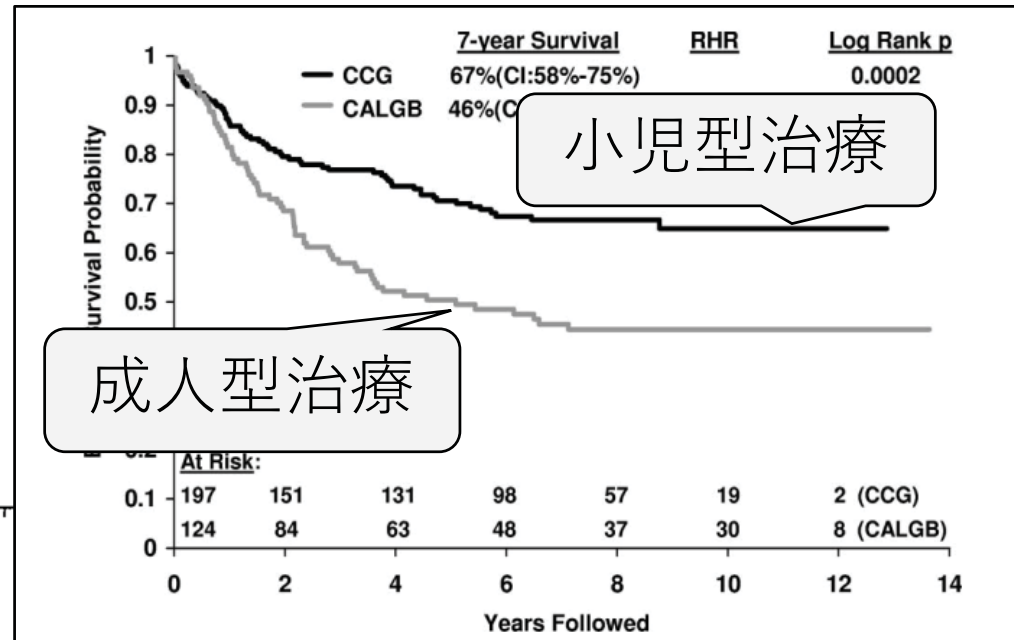


2018 小児がん拠点病院・連携病院の情報公開より

15-20歳は「若い大人」か「年長の小児」か？



Boissel N et al. J Clin Oncol 2003



Stock W et al. Blood 2008

AYA世代のALLには
小児型の治療計画が適している

小児がんと成人がんの連携に関しては

AYA世代がんに関する連携が重要

治療のみならず、支援の部分でも連携が必要

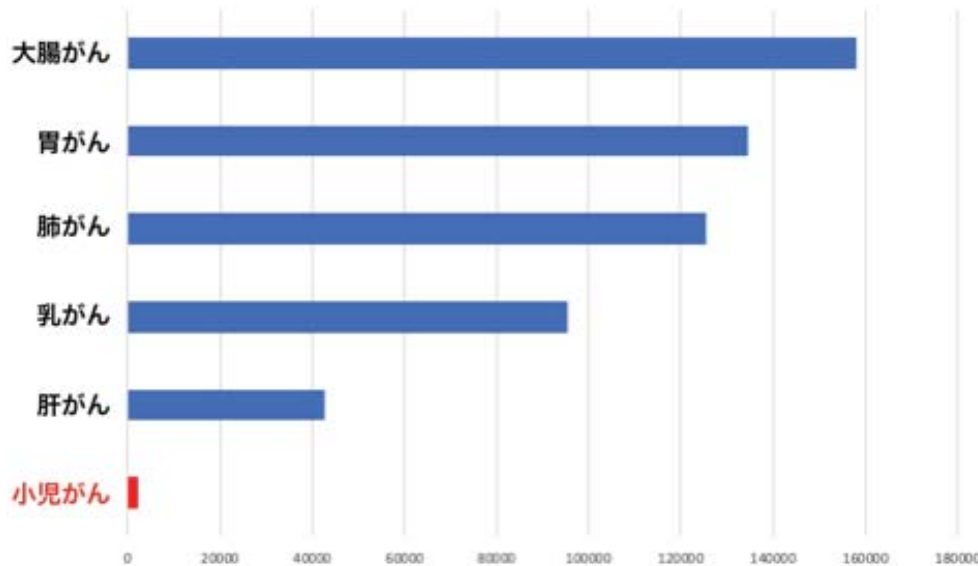
小児がん経験者の長期フォローアップ
に関する連携が重要

特に、小児がん連携病院 カテゴリー3の役割は大きい

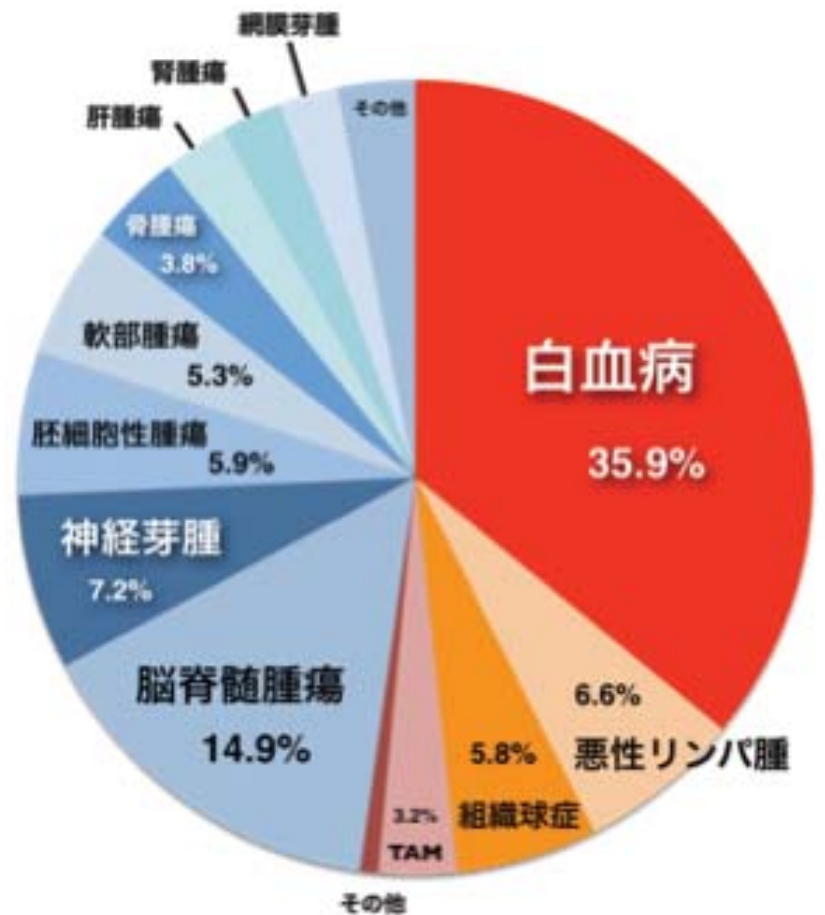
お願いしたいこと①

小児がんのことを正しく知って、情報提供してください

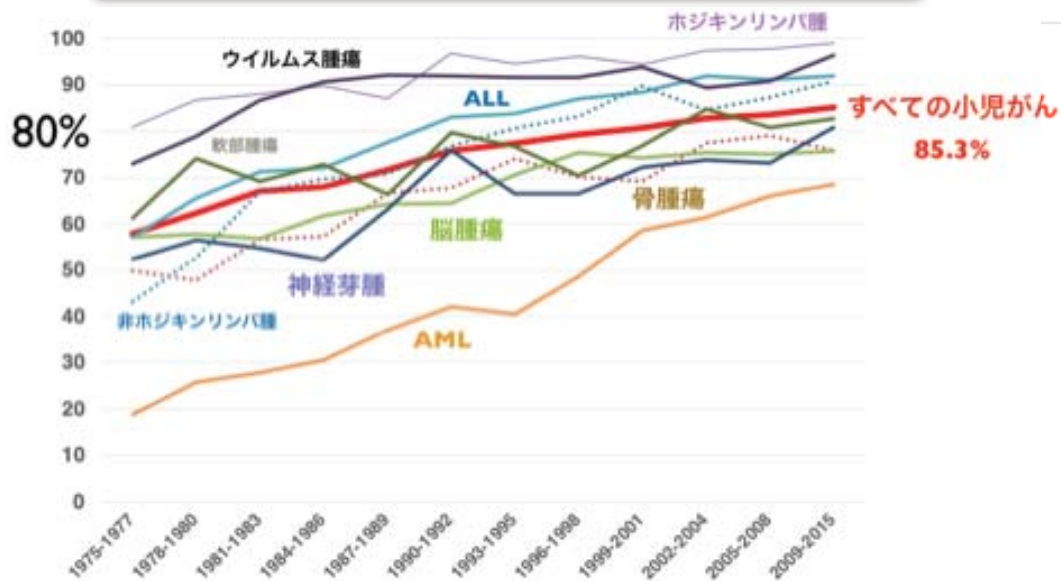
小児がんは数が少ない



小児がんは種類が多い



小児がんは治癒率は80%



日本小児血液・がん学会 2013-2015登録症例より

小児がん情報サービス更新

国立がん研究センター 小児がん情報サービス ganjoho.jp

小児がんは、小児のさまざまながんの総称です。
小児がんの子どもたちの約8割が
治療して成人するようになりました。

病院を探す
小児がん拠点病院
がん診療連携拠点病院
がん相談支援センターなどを探せます

がん情報サービス ganjoho.jp

がん登録・統計
がんの状況や、がん登録、がん対策
について知ることができます。

Facebook
がん情報サービス

新着情報

2019年12月16日：「第10回小児がん拠点病院連絡協議会報告」「第10回小児がん拠点病院連絡協議会資料」を掲載しました。

2019年12月16日：「第5回小児がん中央地域アドバイザリーボード報告」「第5回小児がん中央地域アドバイザリーボード資料」を掲載しました。

2019年05月16日：「第9回小児がん拠点病院連絡協議会報告」「第9回小児がん拠点病院連絡協議会資料」を掲載しました。

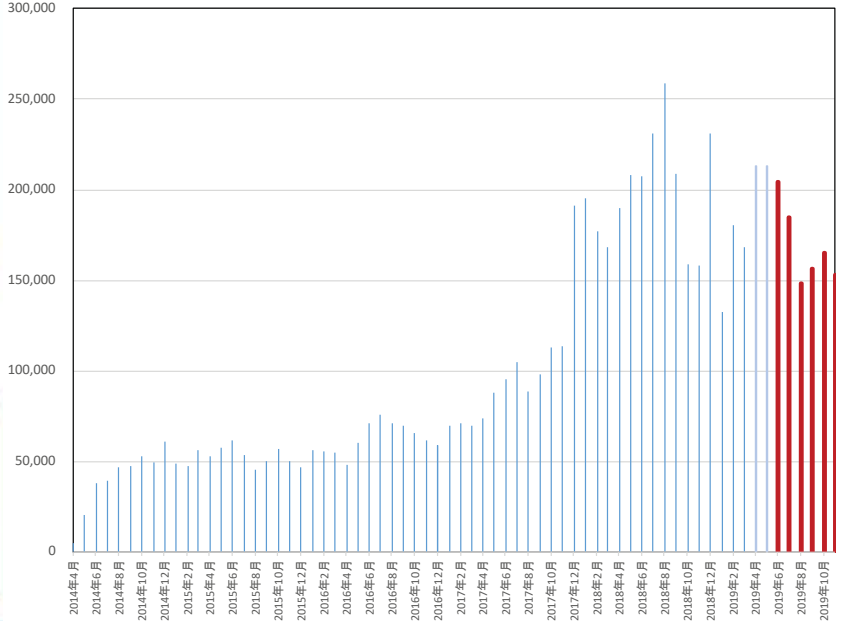
2019年04月18日：「小児がんの病院検索機能」「小児がんの冊子 新装版」を更新しました。

お知らせ一覧へ

このサイトでは、国立がん研究センターがん対策情報センター「がん情報サービス ganjoho.jp」の小児がんに関する情報と、同センターが発行している「がんの冊子 小児がんシリーズ」に掲載されている情報をまとめてご覧いただけます。

このサイトについて サイトマップ お問い合わせ

© 2018 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター



小児がん拠点病院 情報公開

国立成育医療研究センターについて

トップ > 国立成育医療研究センターについて > 主な取り組み > 小児がんセンター（小児がん拠点病院・中央機関） > 全国の小児がん診療施設の情報

全国の小児がん診療施設の情報

はじめに

この度、小児がん診療の質の向上や小児がん患者さんへの適切な医療の提供へつなげるため、各施設のご協力を得て小児がん診療施設についての情報を掲載することとなりました。公開されている情報については下記の説明をよくお読みいただき、ご不明な点がございましたら下記までお問い合わせください。

妊娠と葉情報センター

妊娠・授乳中の服薬に関する情報機関です。専門の医師・薬剤師が、あなたのご相談に応じます。

子どもの心の診療ネットワーク事業

拠点病院を中心に、地域と連携して子どもたちの心のケアを行っています。

エコチル調査メディカルサポートセンター

環境省では大規模な疫学調査「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」を実施しています。

小児慢性特定疾病情報センター

「小児慢性特定疾病情報センター」の構築・情報発信を行い、小児慢性特定疾病児童等の治療・療養生活の改善等に寄与することを目指しています。

小児がんセンター（小児がん拠点病院・中央機関）

国立成育医療研究センターは、小児がんセンターを中心として、日本の小児がん診療をより良いものにするべく努力しております。

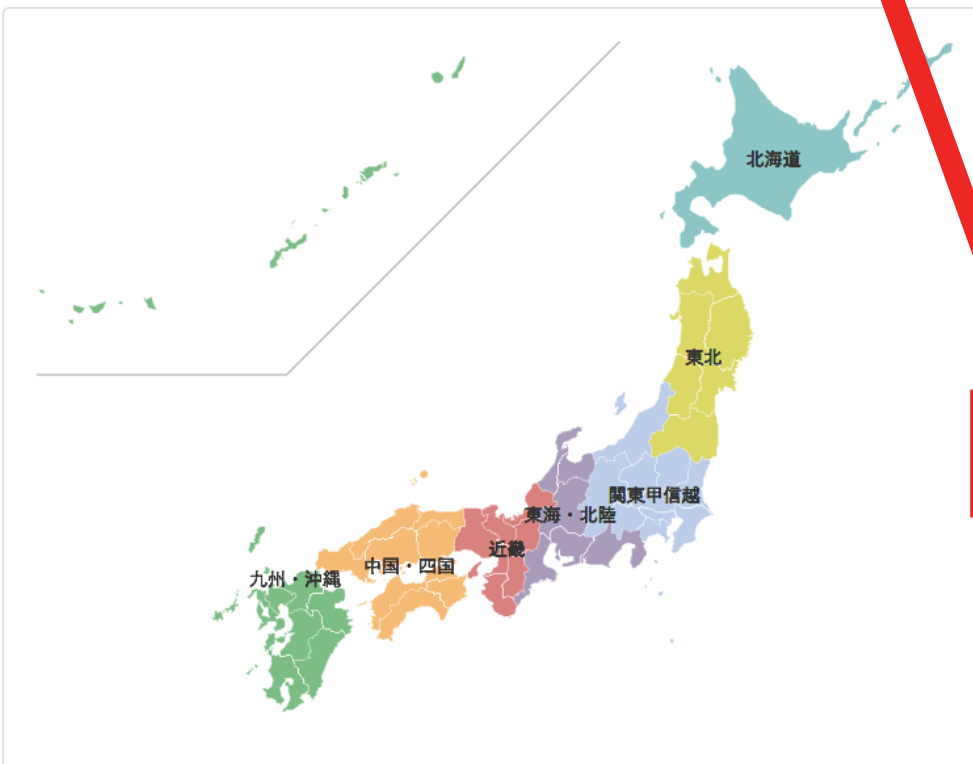
臨床研究品質確保体制整備事業

小児治療ネットワークの中核機関として積極的に臨床研究を実施し、また支援できる体制を構築するため、体制整備、スタッフの教育・研修などを実施しています。

一覧の施設名をクリックすると、その施設の情報公開のPDFファイルが開きます。（全ページです）施設一覧の★マークは小児がん拠点病院に指定されている施設です。

スマートフォン等で地図が表示されない場合は、下記のリンクよりご覧ください。

- ▶ 北海道
- ▶ 東北
- ▶ 関東甲信越
- ▶ 東海・北陸
- ▶ 近畿
- ▶ 中国・四国
- ▶ 九州



がん情報サービス ganjoho.jp 病院を探す

「病院を探す」の使い方 お問い合わせ 検索

がん診療連携拠点病院 がん相談支援センター 小児がん拠点病院 緩和ケア病棟のある病院 希少がん情報公開専門病院

TOP > 小児がん拠点病院を探す

小児がん拠点病院を探す

更新日：2018/09/27 掲載日：2013/03/29

が指定した、全国に15施設ある小児がん拠点病院の情報を記載しています。

掲載している情報は、2017年10月に厚生労働省に提出された「新規指定・指定更新推薦書」または「現況報告書」をもとに作成しております。各施設のご協力を得て、随時、情報を更新しておりますが、現状と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

国立がん研究センターと共に、国に「小児がん中央機関」として指定されている国立成育医療研究センターでも、小児がん診療施設についての情報を公開しています（2017年1月1日時点の情報）。

国立成育医療研究センター 小児がんセンター [全国の小児がん診療施設の情報](#)



お願いしたいこと②

長期フォローアップが大切になります



困ったら、小児がん拠点病院に相談してください

小児がん医療相談ホットラインを開設しました

国立成育医療研究センター 小児がんセンター

小児がん医療相談 ホットライン

診断・治療に関するご相談を随時受け付けています

03-5494-8159

相談無料

平日10:00~16:00

※通話料のみかかります



子どもが小児がんと診断された。診断や治療について詳しく知りたい。
主治医に説明してもらったが、内容が難しく十分に理解できない。
いま受けている治療が最適なのかどうか知りたい。専門の医師の意見を聞きたい。
過去に小児がんの治療を受けたが、進学を契機に通院が途絶えてしまった。どこにかかれば良いのか？

小児がん ホットライン

検索



お願いしたいこと③

小児がん相談員専門研修を受講してください

2020年は9月26-27日（成育）を予定していますが、

小児がん相談員の配置が望ましい

関東甲信越ブロックでは、小児がん相談員の配置をマストとしている

小児・AYA世代のがんの長期フォローアップ に関する研修会 というのもあります

今年はコロナで開催が大変ですが、、、

厚生労働省委託事業

小児・AYA世代のがんの
長期フォローアップ体制整備事業



Lifetime Care and
Support for Child,
Adolescent and
Young Adult
Cancer Survivors



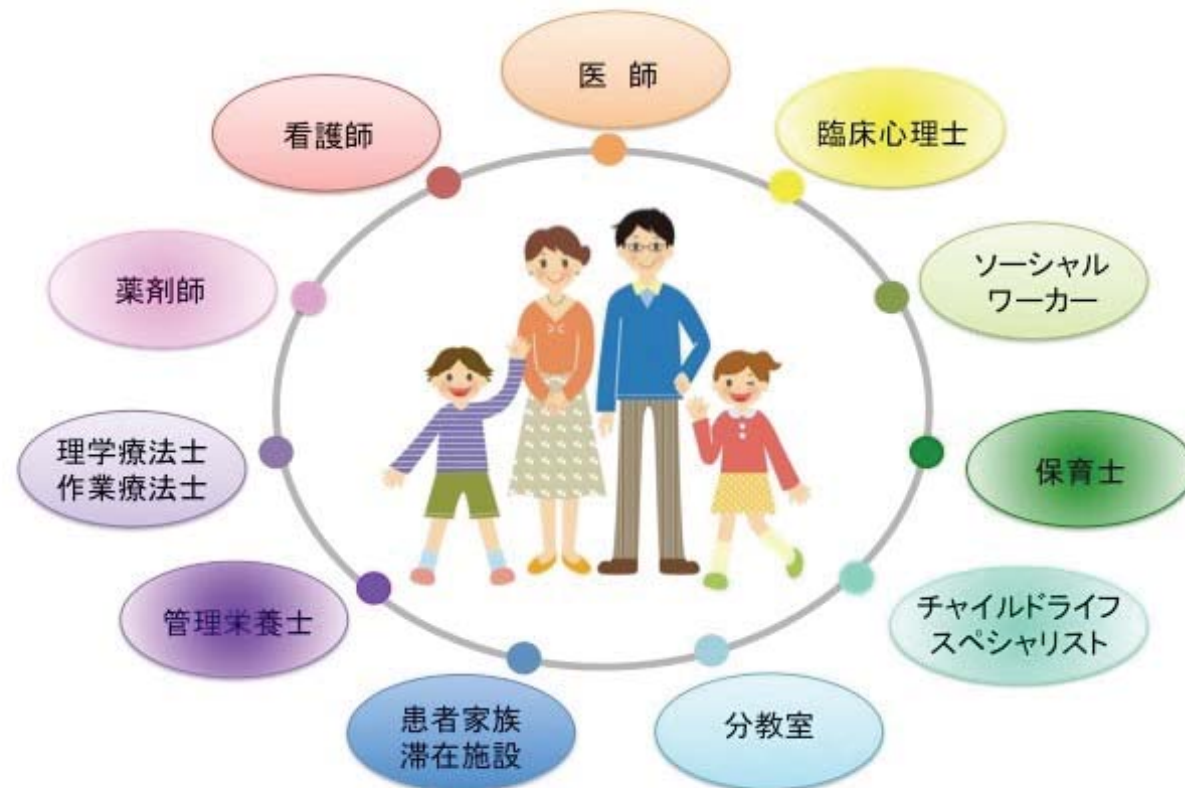
一般社団法人 日本小児血液・がん学会
The Japanese Society of Pediatric Hematology / Oncology

e-Learningの講義内容

No	講義内容
1	小児がん・AYA世代がんの長期フォローアップ総論
2	晩期合併症各論1（治療別合併症/臓器別合併症）
3	晩期合併症各論2（認知機能/心理/社会/家族の心理）
4	健康管理・がん検診
5	移行期支援
6	小児がん・AYA世代がん治療と男性の妊孕性、妊孕性温存
7	小児がん・AYA世代がん治療と女性の妊孕性、妊孕性温存

小児がんのトータルケア

医師、看護師だけではなく、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなど子どもの治療や入院生活に関わる全ての職種のメンバーが一体となって、患者さんである子どもとその子どもをとりまく家族や兄弟をも含めて総合的に行うケアのこと。



みんなで協力して、小児がん医療を よりよいものにしてゆきましょう

